

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		重心児童デイ からふる・ぶらんしゅ (放課後等デイサービス)		公表日	2026年3月29日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	6	長期休暇時など人数が多くなる時は活動内容の工夫により人数を調整しています。	指定基準は順守していますが、年齢が上がるにつれ車椅子類も大きくなるため、狭くなること予想されます。整理整頓に努め、スペースを確保していくとともに、移転等の検討もしていきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9			日によってたまに職員数が厳しいこともあります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		カーテンや目隠しするつい立てがあり、ブラーバシーが保たれています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	コロナ以降も消毒や換気を継続しています。	もう少し広さがあれば動きやすいため、整理整頓やスペースの有効活用などに努めています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		職員休憩や物品保管目的の別館を活動に活用することがあります。また畳コーナーで常に臥床できる場所を確保しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		十分ではないが、努力しています。	業務改善に努力していますが、まだまだ改善の余地があります。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	毎年お忙しい中記載していただいております、一つでも改善に向けて努力しています。	保護者評価でいただいたご意見を踏まえ、毎年少しずつ業務改善をしています。実感できていない職員もいるため、職員への説明にも力を入れていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		月1回の職員会議の他、グループウェアでの情報共有や、無記名投票ができる「何でも相談箱」というアプリをグループウェア内に設けています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	6		第三者評価は未実施です。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		業務内外での研修情報をグループウェアや事業所内掲示で周知し、業務内の研修は受講しやすいようシフト調整しています。	義務化研修が増え、以前よりも職員のニーズや課題に応じた研修の機会が減っています。時間の確保を工夫し、職員の資質向上に努めます。
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		HPに公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		支援計画更新時には必ず保護者面談を行い、保護者の意向や家庭での様子を聞き取り支援計画に反映するようにしています。	利用児の意向を聞き取る努力をしていますが、意思の確認が難しいお子さんが多く、職員のスキルアップが必要です。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		定期的にモニタリング会議をして、職員間で利用児の状況を共有したり、職員の意見を反映した支援計画になるよう、個別支援計画作成会議で広く意見を聴取しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		当日の利用児の支援計画を活動室の見やすい場所に掲示したり、個人ファイルに挟んだり、記録ソフトでいつでも見られるようにしたりして、常に支援計画が意識できるようにしています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	細かく記録をとることを心掛けています。また記録の抽出がしやすいよう、記録アプリの改善を行いました。	重症心身障がい児の標準化されたツールが少ないため、標準化ツールを用いたアセスメントの実施が課題です。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		ガイドラインに沿った支援になるように工夫しています。	日常の支援に当たる職員の支援が「本人支援」に偏る傾向があり、広い視野での支援に向けた研修や意識改革が必要です。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1	多機能型事業所であるため、全員が集まって話し合いをする時間の確保が難しく、児発管や一部の職員で立案することが多いです。	より多くの職員が参画できる工夫をしています。

支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9			放課後デイは過ごしの時間が短く、日常のケアで時間がすぎてしまうことが多いため、活動がワンパターンになってしまうことが多いです。ただルーティンに活動することが必ずしも悪いことではないので、ルーティンと固定化しない工夫のバランスを考慮していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	1	障害特性に応じた個別支援だけでなく、発達段階や身体障がい状況等を考慮した小集団の活動を考慮しています。	定員が少ないため集団活動には課題がありますが、2~3人の小集団で活動できる場を工夫していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	2	毎日とはできていないが必要時に、伝達等の共有はできています。	多機能型で運営しているため、職員の出勤時間にばらつきがあり、「打合せ」というしっかりした形態をとることが難しいのが課題です。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	6	気が付く場合は、振り返りを行っているが、毎回ではありません。時間の確保が難しいです。	送迎も職員が行っており、送迎終了後に打ち合わせの時間を確保することが難しいのが現状です。グループウェアなどを使用し、直接話をせずとも情報が共有できる工夫をしていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		記録アプリの導入により、支援の検証やモニタリングがしやすくなりました。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		今年度から週1回モニタリング会議の時間を設定し、利用児のモニタリングや活動プログラムの話し合いがしやすくなりました。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8			放課後等デイサービスガイドラインや「4つの基本活動」について十分理解できていない職員もいるため、研修をしていきます。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		利用児の意思を確認する努力や工夫を行っています。	意思表示が難しい利用児が多く、好きなことや得意なことを見極めるのは大変難しいですが、研鑽していきたいと思っています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9			児童発達支援管理責任者が出席することが大半ですが、職員の育成のためにも支援職員が出席できるようにしていきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		乙訓地域は関係機関との顔が見える関係が保障されており、ありがたいことに大変連携しやすい環境です。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		学校への送迎時だけでなく、必要に応じてしっかりと連携が図れています。1事業所で難しい対応は、「乙訓地域児童通所支援連絡会」から申し入れ等を行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9		就学時に関係機関からの情報をいただくようにしています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		卒業前に支援経過のまとめを保護者を通じて進路先に提供しています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	1	遠方の児童発達支援センターで行われる研修等に参加しています。	乙訓地域に児童発達支援センターがありませんでしたが、次年度待望のセンターが開設します。連携が図れるようにしていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	7	地域で行われるイベント等に参加して交流を図っています。	定期的な交流の機会は保障できていません。どのような交流であれば安全に実施できるか検討していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	3	自立支援協議会主催の研修等には参加していますが、協議会自体には参加できていません。	地域唯一の重症心身障がい児対象で医療的ケア児を受け入れているにもかかわらず、自立支援協議会に参加できていません。人員配置に余裕を持たせて参加できるように努力します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		連絡帳や送迎時の伝達はもちろん、モニタリングの面談時には可能な限り保護者に参観をお願いし、子どもたちの様子から課題を話し合うようにしています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	家族が参加できる研修やイベントの情報提供を行っています。	ペアレントトレーニングは実施できていません。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時だけでなく、変更があった際にはわかりやすく書面にして説明するように努力しています。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		支援計画更新時には必ず保護者面談を行い、保護者の意向や家庭での様子を聞き取り支援計画に反映するようにしています。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		支援計画更新時には必ず保護者面談を行い、保護者の意向や家庭での様子を聞き取り支援計画に反映し、同意を得ています。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		必要に応じて保護者の困りごとなどを聞き取り支援に反映しています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	1	これまで放課後デイの保護者懇談会は開催されていざせんでしたが、コロナ禍以降、保護者同士の交流が少なくなったことから、今年度から児童発達支援と合同で開催しました。	きょうだい児の支援はできていませんが、次年度はきょうだい児も参加できるイベント等の企画を予定しています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		苦情解決マニュアルを作成しています。可能な限り迅速に対応するようにしています。	対応者が管理者や児童発達支援管理責任者に集中しており、役割の分散が課題です。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		月1回の通信を発行し、HPも月1回以上は更新するように努力しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			事業所がオープンスペースのため、来客時などにはより細心の配慮が必要です。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		カードやサイン、スイッチやアプリで意思表示できる可能性のある利用児には適切なツールを使用できる工夫をしています。	意思表示が難しい利用児も多く、読み取る努力をしているものの、大変難しいです。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	6	ホームページで活動内容をとり上げています。	事業所から出かけたり、地域の行事に参加していますが、事業所の行事に地域住民を招待することは難しく実施できていません。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		マニュアル類を揃え、定期的に訓練を実施しています。	周知には課題があります。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		BCPを策定し、避難訓練を実施しています。備蓄品等を少しずつ揃えています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		利用開始時はもちろん、途中で変更があった場合には保護者から情報を提供してもらい、確認しています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		アレルギーが発覚した場合は医師の指示を受けて、それに応じた対応ができるよう、注意喚起の表示等を行っています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画がようやく形になりました。	安全計画をわかりやすくまとめるのが次年度の課題です。防犯訓練等はまだまだできていません。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		安全に対するマニュアル類を適宜改定しています。	ご家族への周知はまだ不十分です。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		ヒヤリハット共有しやすいよう、アプリの改善を行い、共有しやすくなりました。	再発防止対策が十分話し合われていません。具体的な対策に繋げていくことが課題です。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		職員の代表が外部研修に参加したり、内部で研修を実施しています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		身体拘束は実施していませんが、身体拘束につながる支援があった場合は、支援の改善を話し合うようにしています。		